

開講年次・時期	1年通年	授業回数	30回	時間数	60時間	必修・選択	選択	授業形態	講義	単位数	4単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NC230	科目名	医療的ケア I	担当者名	松橋ひとみ
授業の概要	医療的ケアに関連した人体の構造、機能について学び、ケアの必要性を知る。医療的ケアによる人体への侵襲、及び感染の可能性を知り、安全・適切に実施することの必要性を知る。共通専門用語を学ぶ。				
科目の到達目標	1. 医療的ケア実施の基礎を習得する。個人の尊厳と自立、医療的ケアの倫理上の留意点、医療的ケアを実施するための感染予防、安全管理体制等の基礎知識について学習する。 2. 喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎知識、実施手順を理解する。 3. 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎知識、実施手順を理解する。				
DPの観点	④協調性(30)⑥専門知識・技能(40)⑧実践力(30)				
授業時間外学修(予習・復習)	該当するテキストの箇所を読んでおく。予習・復習は、それぞれ2時間程度の学習をすること。				
フィードバックの方法	授業担当者より小テストの結果を返却する。				
単位認定の要件	小テストを随時実施し、習熟度を確認する。小テスト結果と授業内提出物・活動状況、から単位認定をする。厚生労働省の定めにより、実時間50時間の講義を受講することが義務付けられているため、規定時間に満たない場合は補講を実施する。				
評価の方法・割合(%)	小テスト60%、授業内提出物 20%、授業内活動 20%				
履修上の注意事項	医療的ケア基本研修(講義+演習)の講義として位置づけられる。2年時4の回目講義時に最終筆記試験を実施する。厚生労働省の定めた規定に基づき、2年次の筆記試験で90点以上を合格とし演習へ進む。30分未満の遅刻・早退が3回みとめられた場合、1回の欠席とし評価時に換算する。介護福祉士資格取得必須科目				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			人間の尊厳と医療倫理	④⑥⑧	振り返りシート
2			医療に関する制度。医行為に関する法律。関連職種との協働。	④⑥⑧	振り返りシート
3			安全な療養生活①(痰の吸引、経管栄養の安全な実施①)	④⑥⑧	振り返りシート
4			安全な療養生活②(痰の吸引、経管栄養の安全な実施② 救急蘇生法)	④⑥⑧	振り返りシート
5			安全な療養生活③(標準予防策)	④⑥⑧	振り返りシート
6			清潔保持と感染予防(標準予防策の演習)	④⑥⑧	振り返りシート
7			健康状態の把握①(身体、精神の健康)	④⑥⑧	振り返りシート
8			健康状態の把握②(バイタルサイン測定の演習)	④⑥⑧	振り返りシート
9			健康状態の把握③(健康状態を知る項目)。第1節まとめ	④⑥⑧	振り返りシート
10			第1節:小テスト。呼吸のしくみ、はたらき。人体の構造と機能。	④⑥⑧	振り返りシート
11			いつもと違う呼吸、痰吸引	④⑥⑧	振り返りシート
12			人工呼吸器と吸引	④⑥⑧	振り返りシート
13			子どもの吸引	④⑥⑧	振り返りシート
14			吸引を受ける人の気持ち、説明と同意	④⑥⑧	振り返りシート
15			呼吸器系の感染と予防、安全確認	④⑥⑧	振り返りシート
16			吸引時の急変、対応	④⑥⑧	振り返りシート
17			痰吸引で使用する器具、清潔保持。	④⑥⑧	振り返りシート
18			吸引の技術と留意点①	④⑥⑧	振り返りシート
19			吸引の技術と留意点②	④⑥⑧	振り返りシート
20			吸引の留意点、報告、記録。第2節まとめ。	④⑥⑧	振り返りシート
21			第2節:小テスト。経管栄養に必要な人体の構造と機能。	④⑥⑧	振り返りシート
22			消化器系のしくみとはたらき。	④⑥⑧	振り返りシート
23			消化・吸収と消化器症状。	④⑥⑧	振り返りシート
24			経管栄養とは。種類と使用機材の構造について。	④⑥⑧	振り返りシート
25			経管栄養で注入する内容	④⑥⑧	振り返りシート
26			経管栄養実施時の留意点。	④⑥⑧	振り返りシート
27			子どもの経管栄養法。	④⑥⑧	振り返りシート
28			経管栄養に関する感染予防、説明と同意、安全確認。	④⑥⑧	振り返りシート
29			経管栄養で使用する器具、清潔保持。	④⑥⑧	振り返りシート
30			経管栄養の技術と留意点。	④⑥⑧	振り返りシート
期末試験			2年次で講義を継続するため、試験を実施しない。		

使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座15「医療的ケア」(中央法規出版) 荘村明彦
参考文献 参考URL	気管吸引教育ガイド(メディカ出版) 長谷川素美
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	------------------------------------------------

授業の自己評価	
---------	--